

国際交流センター

国際交流センター

野村 正彦
(センター長)

平成19年発行の埼玉医科大学雑誌34巻1号に、国際交流センターの概要と業務内容および事業目的を記した。今年は、実際に国際交流センターが行っている事業の内容を紹介して皆様に理解して頂き、広く活用に繋がるよう業務と事業内容を記す。

1. 学生の留学に関する事項.

1. 相互交換留学生制度.

交換留学生制度は他大学でも広く行われているが、これらは海外の大学に出かけて行き、研修を行って来ると言うのが大部分である。埼玉医大で始めた相互交換留学生制度は、「相互」の言葉があるように、海外へ出かけて行くだけでなく、相手校から留学生を受入れて、完全な相互交換を行って来た事が重要であり有意義な所である。

1995年に始めたこの制度は、海外の大学から医学生を迎え、そして埼玉医大関連病院で研修を行う。ここで重要なのは、今現に埼玉医大に來ている留学生が、その後海外へ研修に出かけて行く本学5年生と一緒にBSLを行う事である。小グループで病院の各科をローテートして、指導医から直接受ける指導に対して、どちらの学生が理解力は良く、そして知識があるかは明白になる。学年全体が緊張と興奮とで盛り上がらないわけが無い。そして、8月になるといよいよ、5年生22名の交換留学生が、ヨーロッパ、アメリカそしてアジアにある相手校に期待を胸一杯に抱いて出かける。中には同じ科でBSLを共にして来た留学生が、自分の母校へ帰国する者と一緒に同行できる者もいる。

2008年、9校であった相互交換留学相手校に新たに、10番目のPecs大学が加えられた。ハンガリーの片田舎にある大学だが、創立640年の歴史を持つ世界でも最古の大学の一つである。この歴史の中から、この7月は2人男子医学生が研修の為に滞在して、交換留学の歴史の第1ページを記しました。もちろん、14年目を数える最初の交換留学相手校である他の大学からの留学生達も、それぞれ4週間を埼玉医大に來て、それぞれの希望の診療科で研修を行った。特に、毛呂キャンパスの大学病院に加えて、川越キャンパスの総合医療センターと、日高キャンパスの国際医療センターでも、受け入れをお願いして、3施設にあるそれぞれの各診療科で研修を指導頂きました。そして、今年の8月の留学を終えた時点で、本学の留学体験者の総数は253名となった。この制度は埼玉医大が誇る事業であるのは勿論の事、この14年間に築き上げて来た成果の大きさは、簡単には言い尽くせない貴重な宝物だと確信できる。

学生の時の貴重な体験は非常に意義深い事であり、卒業後の医師としての生活の中で、充分にこれらが活かされる事でしょう。これらの成果の発表を留学生報告会と認定書授与式として10月29日に開催します。

発表会はもちろん、全て英語で行います。そして、学長から、この貴重な留学生に選ばれ、海外の留学先相手校にて留学を体験して来た実績の認定書が手渡されます。

ここに、09年度相互交換留学生募集に始まる年間行事日程を記す。

12月 09年度相互交換留学生募集 開始。

2月 交換留学生選考

3月 21-23日、越生セミナー「英語力強化合宿」。

選考された22名の交換留学生が、語学研修を2泊3日間ウエルサンピアで行う。関係各位から講演を含む英語力強化合宿に参加を願う。

7月 丸木理事長主催、相互交換留学生壮行会。

11-13日、河口湖セミナー 2泊3日、

海外から滞在中の留学生とともに「留学直前の準備合宿」。

8月2日, 5年生22名の交換留学生が, 海外研修に出発.

30日, 4週間の研修を終えて帰国.

10月 交換留学生帰国報告会および留学生修了書授与式.

開始して14年目になる相互交換留学制度は, Pecs大学が第10番目の相手校に増え, 相互に行き来する学生数も増加しました. 更に, 内容も年々順調に, そして充実した方向に向けて発展して行っております. 海外から来た留学生の受け入れをお願いしています各基本学科の関係する諸先生方には, 臨床研修の場における個々学生の指導に, なみなみならぬお世話を懸けております. この滞在している期間中, 5年生の学生自身も, 同じ指導を受ける場においては, どのような強烈な刺激と多くを学ぶ事ができるかを考えると, 計りしれない内容の充実感が感じられます.

この場を借りて改めて関係各位に感謝申し上げます.

この相互交換留学相手校の数と言い, 研修を行う大学間での内容と言い, 全てが順調に, そして益々充実した方向に向けて発展して行っております. これは一重に関係各位に, お礼を一言申し上げます. そして, これらもすべて, 『国際貢献です!』と声を大にして叫びたい気持ちです.

2. 低学年学生を対象にした語学研修制度.

06年度に始めた, 医学部4年生以下の学年, および保健医療学部 of 学生を対象に, 春休みを利用して, 短期語学研修を行った事業である.

2007年3月4日から3月17日までの14日間, オーストラリア, メルボルンにある, Monash 大学クレイトンキャンパスで語学研修を行った. この研修の特徴は, いくつかあるが, まず宿泊が一般家庭のホームステイであり, 参加者が1人ずつこれを利用する事にある. 生活を1人1人別々に, 家庭内に入って体験をする. そしてプログラムは, Medical Day と称して医学部のキャンパスで, 医学生との交流や, 大学病院での研修を取り入れている事である. これは, 医学部生だけでなく, 保健医療学部生にとっても, 医学に関連した各施設を含め同じ目線で体験ができる貴重な内容であると思われる. 参加学生は, 医学部生が13名で, 保健医療学部生が7名であった. かつ記念すべきは, 2つの学部が協力し合って初めて共同事業が成し得た事である.

次年度は, 2008年3月4日から19日までの16日間, 22名の参加者で, 語学研修を行った. 昨年と違って, もう一つのキャンパスであるペニンシュラが使われた. 医学部生が13名, 保健医療学部生が9名であった. 昨年は, 医学と言う標榜を特に考えて, Medical Day を特別に設定して, 医学部の先生と学生, それに病院関係の施設見学を含め, 多くの関連施設の関与も取り入れた. 今年は更に, 看護学科の学生が多い事を配慮して, 病院の中でも看護学に関与する時間を考慮して研修に導入し行った.

これらの成果を, 皆様に広く知って頂く為に9月30日, 医学部第2講堂で報告会を開催した. 前2回の研修中, 学生諸君と同行して頂いた笹島准教授の司会のもと, 学生諸君と関係各位の同席を願い, 熱のこもった体験を踏まえた報告会を見事に熱演してくれた. そして, これらの内容を全て, 国際交流センターホームページで見ることができるよう, PDFで公開してあります. 今後, 参加を考えている学生諸君も個々にアクセスが可能であり, 種々情報を見る事が可能になりました.

更に, 2009年3月4日から20日までの17日間, 第3回目の語学研修を行う予定である. 公募を広く始めており, より多くの参加者の応募を期待している.

2. 教員の留学に関する事項.

従来の教員の留学は, 各基本学科を中心に, 海外のどこに行くかも含めて, 研究室レベル, 教授をはじめ知合いの範疇や領域から話が起り実行して来た. 07年8月に丸木理事長と山内学長から, 教員の留学に関して直接窓口を行うように指示を頂いた. 幸い, 今学生に行って来ている相互交換留学生制度の相手校が, 10校ある. これらは学生を教員として置き換える事で, すぐに実現に向ける事が可能である. 現に, 10校のうち何校かは既に話し合いを進めていて, すぐにでも相互の留学が実現できる所迄話し合いができています. そして, 選ばれて, 海外に出かけて行く教員は, 大学の各基本学科を留守にする期間と, その間の業務があるが, これを教室研究室で認めてくれさえすれば, 大手を振って, 大学の代表者としての顔で, 留学が可能になると言う, 願っても無い素晴らしい計画である.

今種々の詳細な規約, 規定が決まって来ており, これらを発行できる所迄進んでいる.

1日も早く, 各位にこれらの朗報をお伝えができる事を望んでいる.